

健やかな体と心の育成～学校・家庭・地域の連携・協働による取組の推進～【広島県】

■団体の名称

府中市立旭小学校

■連携している団体

小学校、PTA、学校運営協議会、給食センター、広島大学大学院、広島大学附属学校

■背景・ねらい

コロナ禍の影響もあり、児童の運動時間の減少、運動に親しむ児童の二極化、新体力テストの結果の低下傾向、不登校傾向児童の増加等の課題が見られ始めていた。そこで、体育科の研究を軸にしながら生活習慣の改善にも一体的に取り組むことで、心身ともに健康で、活力ある学校生活を送ることができる児童の育成をねらい、取組を進めた。

■活動内容

○「朝からすっきり朝遊び」「元気タイム」による運動の実施
朝遊びやロング昼休みで、級友や教員のみならず異学年と体を動かす機会を創出し、運動の習慣化を図るとともに、コミュニケーション能力を育成している。

○児童・保護者・地域合同「スポーツフェスタ」の実施
児童、保護者、地域住民が交流しながら体力測定を行う「スポーツフェスタ」（体力テスト）を合同で実施している。

○「チャレンジカード」を活用した生活習慣の振り返り
「チャレンジカード」を活用した生活習慣の振り返りや、「アウトメディアチャレンジカード」により、電子メディアに接する時間の減少に取り組んでいる。また、メディアを使わない過ごし方の好事例を、「ほけんだより」に掲載している。

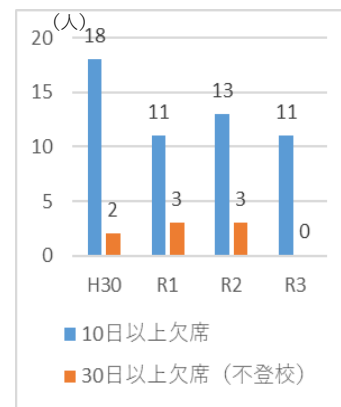
○「楽しい！またやりたい」を生むための教員研修
大学等の専門家による実技研修により、教員が運動の楽しさを実感し、児童が運動に没頭できる授業づくりや、課題別にグループ活動を行うなどの工夫を通して、体育の授業改善に取り組んでいる。

○地域人財を生かしたスポーツ教室、ロードレース大会の実施
学校運営協議会と連携し、地域全体で児童のがんばりを支えている。また、「府中市コミュニティ・スクール」パンフレット等にも掲載している。

■成果

○生活習慣の改善や人間関係形成能力の向上

コロナ禍で生活習慣が不規則になったり、コミュニケーションも不足したりする中、「早く寝ると翌日もすっきり起きることができ気持ちよく登校できた。」等の生活習慣の改善につながる効果を実感している意見が多くあった。また、多様な他者とのコミュニケーションを活発に行った結果、児童の心の開放や人間関係形成能力の向上につながり、不登校児童の減少などの波及効果が見られた。



不登校等児童数の推移

○運動能力の向上

「運動が楽しい」と感じるとともに、友達と協力し工夫して運動している児童が増加した。また、日常的に運動を行う児童が増えたことにより、「体力・運動能力調査」において、近年、低下傾向にあった体力が向上し、令和3年度については、多くの項目において、全国平均値を上回る結果となり、特にこれまで下位層に位置していた児童の記録が向上する傾向があった。